

2016年4月25日

横浜ゴム、バス停での乗降をスムーズにする バリアフリー縁石の実証実験に協力

横浜ゴム（株）は2016年1月20日～1月29日、新潟市で行われたバス停のバリアフリー縁石の実証実験に協力した。実証実験は、公益社団法人日本交通計画協会が主催し、新潟市、新潟交通(株)の協力を得て実施した。また実験には横浜ゴムのほかに、(株)アドヴァンス、日本道路(株)、三井物産プラントシステム(株)が協力した。

従来のバス停はバスの車体と縁石を密着させることが難しく、乗降口と歩道の間にも生まれる隙間が高齢者や車椅子、ベビーカー使用者が乗降する際の大きな負担となっている。バリアフリー縁石にはこうした隙間を解消する効果がある。

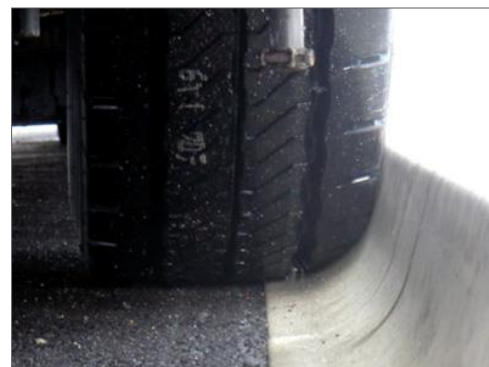
実験には既に欧州市場にて実用化されている縁石（欧州製）と、日本国内で開発中の縁石の計2種類のバリアフリー縁石が使用された。これらの縁石は、車道に面した側面が内側にカーブを描くように加工されている特殊なもので、タイヤのショルダー部分をカーブに沿うように接触させながら停車することで縁石側面がタイヤのガイドとなるため、車体を正確に縁石側まで寄せることが可能となる。

バリアフリー縁石の使用では、縁石に接触するタイヤショルダー部の耐久性が重視される。横浜ゴムはタイヤの耐久性に関する検討やシミュレーションなども含め実証実験に協力。実験には夏タイヤ「MY777」とスタッドレスタイヤ「ZEN 903ZW」を使用し、タイヤ形状の違いによる車両停車時の正着し易さ、耐久性への影響などを確認した。

バリアフリー縁石はこれまで国内での導入事例はないものの、東京臨海部 BRT システムをはじめ、全国各地において導入検討の動きがはじまっている。



実証実験の様子



バリアフリー縁石とタイヤの接触部

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株）広報部 担当：田中
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570